

ルカの福音書前半

イエスの生涯に関する最も古い記録の一つで、この書と使徒の働きの一部構成になっています。

両方の書の冒頭を読めば同じ著者によるものだとわかります。

使徒の働きに記された手がかりや古い言い伝えから、その著者はルカのようなのです。

彼は使徒パウロの同労者と一緒に宣教旅行をしましたし、医者であったことも知られています。

ルカはこの書の序文で、なぜどのようにしてこの書を書いたか述べています。

イエスについての記録は、すでにいくつも良いものがあることを認めつつも、ルカは最初の弟子たちが目撃したことをできるだけ多く記しておきたかったというのです。

それは彼の言葉を借りると、私たちの間で成就したことを順序立てて書くためでした。

この成就という言葉が、ルカがこの書を記した理由を表しています。

彼にとってイエスのストーリーは単なる歴史的な事実ではなく、

神とイスラエルの契約の物語さらに神と全世界の物語の成就なのです。

この書の構成は分かりやすく、

まずバプテスマのヨハネとイエスの物語で始まる導入部があります。

次に3章から9章では、故郷ガリラヤを舞台にイエスとその働きについて書かれています。

その後、真ん中に位置する大きなセクションでは、

イエスのエルサレムへの旅路が綴られ、

これがエルサレムでの最後というクライマックスにつながっていきます。

そしてイエスの死と甦りについて記し、これが使徒の働きに続いていくのです。

このビデオではルカの福音書の前半に焦点を当てていきます。

導入部ではバプテスマのヨハネとイエスの誕生が並行して語られています。

年老いた祭司のザカリヤと妻のエリサベツ、

それに若い未婚の女性であるマリアと彼女の婚約者ヨセフが登場します。

男の子を産むという彼らにとって信じがたいことを神から約束されました。

しかしその約束は実現しヨハネとイエスが誕生したのです。

二人の親は喜びの歌を歌いあげます。

この賛歌は、二人の子どもたちが神の昔からの約束を成就することを歌っていて、

旧約聖書の詩篇や預言書と響き合っていますが、

それだけでなく、続く物語における二人の息子たちの役割についても触れています。

ヨハネは預言書で約束されていたイスラエルが神に会うための備えをする預言者です。

そしてイエスはダビデに約束されたメシアなる王であり、

イスラエルの上に神の支配をもたらし、

アブラハムに約束されたように国々へ祝福を与える方です。

この後マリアがイエスの誕生を感謝するために神殿に行ったときに、

年老いた預言者アンナとシメオンがイエスを見て彼が誰であるかを悟ります。

シメオンはイザヤ書に基づいた歌を作って歌いました。

歌の中で彼はこの子はイスラエルのための神の救いであり、

国々への光となるだろうと言います。これらの預言とともに物語は次のセクションに進み、

ルカはイエスと彼の使命について語ります。

舞台はヨルダン川です。ヨハネは洗礼を通して悔い改めを呼びかけ、

神への忠誠を新たにしたイスラエルを起こすための運動を進めていました。

彼は神の国の到来に備えていたのです。
そこにその新しいイスラエルの指導者としてイエスが現れ、
聖霊と天からの神の声というしるしが、イエスが神の愛する子であることを宣言します。
この後、系図が示されますが、
イエスの先祖をたどるとダビデ王、そしてアブラハムにつながり、
最終的には創世記のアダムに辿り着くのです。
ルカはここでイエスがメシアなる王として神の祝福をもたらすことを示しているのです。
それはアブラハムの子孫イスラエルのためだけでなく、
アダムの子孫つまり全ての人類のためなのです。ルカはこの系図の後に、
イエスが故郷ナザレで公に使命を果たし始めた物語を配置しています。
シナゴグの集会でイエスはイザヤ書の「主の霊が私の上にある、
貧しい人に良い知らせを伝え、囚われ人に自由を与え、
目の見えない人の目を開き、抑圧されている人を自由にする」という箇所を読み上げました。
他の福音書と同様にルカの福音書でも、
この場面でイエスが上のよい知らせをもたらすメシアなる王であると述べていますが、
ルカの特徴はイエスの働きが社会にもたらした影響を強調していることです。
例えばイエスは、ギリシャ語でアフレーシスと言われる自由をもたらしました。
これは解放を意味する言葉で、レビ記25章に記されている
ヨベルの年の規定のことを指しています。ヨベルの年にはイスラエルの奴隷は解放され、
借金のある人はそれを免除され、売られた土地は元の持ち主に返されます。
神がもたらす開放と正義とあわれみを象徴する行為なのです。
そしてこの解放というよい知らせは、貧しい者たちのためだとイエスは言います。
旧約聖書で貧しい者と訳されているヘブル語の意味は、
単にお金がない人というより広い意味があって、障害者や女性、
子どもや高齢者のように社会的に地位が低くなっていた人たち、
また外国人のように社会的に阻害されやすい人や、
自身の不適切な判断によって宗教的に受け入れてもらえない
生活を選んでしまった人たちも含まれます。
そのような人々にとって神の国は各別に良い知らせなのだ
とイエスは言っているのです。この後イエスの貧しい者たちへのよい知らせとは、
具体的にどんなものだったかをルカは記しています。
それは寝たきりだった女性や皮膚病の男性に、
麻痺のあった人が癒されるというようなことでした。
またイエスがご自身の共同体に、
レビのような取税人を招き入れた話も記されています。
彼は経済的には貧しくはありませんでしたが社会のはみ出し者でした。
またイエスが娼婦を赦した話も記されています。
ルカはここでイエスの王国がもたらす
回復と人々の生活を一変させる様を描いているのです。イエスは神の国が持つ癒しの
力へと招かれる人々の輪を広げていました。
イエスに惹かれ集まる人々は増え、イエスはさらに大胆なことをします。
イスラエルの十二部族にちなんで十二人の弟子を任命すると、
彼らをリーダーとした新しいイスラエルを始めたのです。
そしてイエスはルカが平地の説教と呼んだメッセージの中で
逆転王国のマニフェストを述べました。

社会からはじき出された者や貧しい者への神の愛は、神の国において人間の価値観を全部ひっくり返すと言っているのです。

イエスは彼の招きに応じる新たな神の民を形作るために生まれました。

それは貧しい者たちにさえ惜しみなく徹底的に与える人々、他者に仕える指導者になる人々、平和を作り他者を赦す人々、深い信仰を持ちながら偽善的で形式的な宗教を拒絶する人々のことです。

イエスの画期的な神の国のビジョンと、それは神の権威に基づくとの宣言は、イスラエルの宗教指導者たちの間で摩擦と議論を引き起こしました。

イエスがいわくつきの人々と関わりを持つことは、宗教的な伝統と社会的な安定を脅かすことだったのです。

そこで彼らはイエスは酔っ払いで罪人たちと付き合い神を冒瀆していると非難しました。そしてこのセクションの最後でイエスの使命について重要な事実が明かされます。

イエスはご自分こそメシアなる王であるが、エルサレムで死ぬことによって、イザヤ書53章にあるイスラエルの罪のために死ぬ苦難のしもべである王としてイスラエルを統治すると言いました。

このショッキングな宣言は次の場面に繋がります。

イエスは三人の弟子を連れて山に登ると、突然彼らの前で変貌を遂げたのです。

彼らは神の臨在の雲に包まれ、

彼は私が選んだ子という声を聞き、モーセとエリアが立っているのを見ました。

この二人は神の臨在を目にし、その声を聞いた預言者です。

彼らは、イエスがエルサレムで遂げようとしている

出エジプトについて語っていたとルカは記しています。

これはイスラエルがエジプトからの書かれた物語を指しています。

ルカはイエスを新しいイスラエルの民を心の自由に導き、

罪と悪という独裁国から人格的にも霊的にも社会的にも

解放する新しいモーセとして描いているのです。

こうして物語は後半へと入っていきます。これがルカの福音書の前半です

【要約】

この文章は、ルカの福音書の前半に焦点を当てています。文章では、ルカの福音書の構成や内容、特にイエスの生涯における重要な出来事について説明されています。

ルカの福音書は、バプテスマのヨハネとイエスの誕生に焦点を当てており、神からの約束が実現し、ヨハネとイエスが生まれる過程が描かれています。また、イエスの使命と彼がもたらす神の国のメッセージにも触れられており、特に貧しい者や社会的に弱い立場にある人々への神の愛と癒しの力が強調されています。

ルカはイエスを新しいモーセとして描き、イスラエルを霊的に解放する指導者として位置づけています。彼のメッセージは、従来の宗教的な伝統とは異なり、社会に変革をもたらすものであると示唆されています。

最終的に、イエスの死についても触れられ、彼が罪のために苦しむしもべとして死ぬことを宣言する場面が示されています。

この文章は、ルカの福音書の前半のキーポイントを要約しており、ルカがイエスの生涯とメッセージをどのように描いているかについての洞察を提供しています。